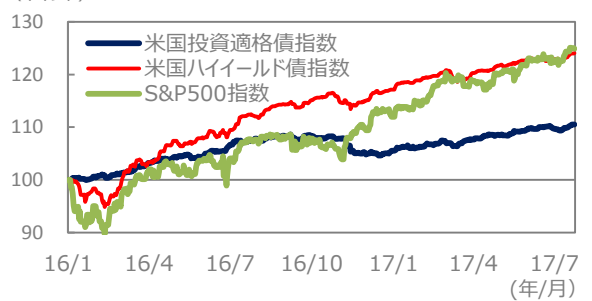


今日のトピック 良好な米国の社債市場（2017年7月） 相対的に利回りの高い社債への需要は根強い

ポイント1 良好なパフォーマンス ハイールド債は株価に匹敵

- このところ米国の投資適格債指数や、ハイールド債指数のパフォーマンスは極めて良好で、16年年初以降の収益率はそれぞれ10.5%、24.1%となります（7月は24日現在）。
- 同期間のS&P500種指数の上昇率は24.9%でした。ハイールド債のパフォーマンスは、同期間においては、株価に匹敵するものだったといえるでしょう（指数は、いずれもトータル・リターン指数、右図の注3を参照）。

【米社債指数と株価指数の推移】

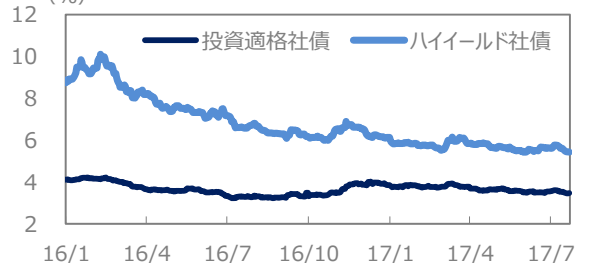


- (注1) データは2016年1月1日～2017年7月24日。2016年1月1日 = 100として指数化。
 (注2) 社債指数はBloomberg Barclays社債指数。
 (注3) 指数はいずれも、価格の騰落だけではなく、利息も加味した総合的な収益を表すトータル・リターン指数。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 旺盛な社債への需要 相対的に高い利回りが魅力

- 社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、投資適格債、ハイールド債とも緩やかな縮小傾向にあります。
- 米連邦準備制度理事会（FRB）は、金融緩和の解除を進めていますが、インフレの落ち着き等から、利上げの速度を緩やかなものととどめています。こうしたなか、相対的に利回りの高い社債への需要が高まっていると考えられます。参考までに直近の利回りは、投資適格債が約3.1%、ハイールド債が約5.4%、10年国債利回りが約2.3%でした。

【米国債との利回り格差】



- (注1) データは2016年1月1日～2017年7月24日。
 (注2) 対国債利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。Bloomberg Barclays米国社債指数ベース。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 今後も堅調な推移が見込まれる

- FRBは、景気拡大の持続を背景に、利上げの継続に加え、年内にバランスシート（B/S）の縮小を開始する見通しです。ただし、インフレが抑制されていること等から、利上げ、B/Sの縮小とも慎重に進める公算が大きいと見られます。長期金利は、緩やかにレンジを切り上げる展開になると予想されます。
- 経済情勢やFRBの政策スタンスを踏まえると、相対的に利回り、安全性の高い投資適格債は、引き続き堅調に推移すると予想されます。一方、ハイールド債については、エネルギーセクターの比重が大きいこと、原油価格の動向に十分な注意を払っておく必要があると考えられます。

ここもチェック! 2017年7月19日 米国経済と株式市場の見通し（2017年7月） 2017年7月14日 イエレンFRB議長の『議会証言』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。